

ふるさと阪谷をよくする会

1 基本データ

○地区人口 1, 478人 (H28.1.1 現在)

男708人：女770人

○面積 36.28km²

○地区の沿革

阪谷地区は大野市の北東部、白山山系の経ヶ岳の麓に位置し、西は九頭竜川を挟んで富田地区、北は勝山市、東は五箇地区に接している。

集落は18。昭和29年の町村合併により、阪谷村が大野市となる。

標高250m～500mの中山間地域で、大野市の中でも雪が多い地区である。

面積の3分の2は山林である。農地は圃場整備が進み、広大な棚田となっている。

六呂師高原には、広さ220ヘクタールの奥越高原牧場、自然保護センター、青少年自然の家等の県の施設やミルク工房奥越前等の市の施設を有する。

平地より気温が1度から2度低く、経ヶ岳(標高1,625m)から吹き下ろす冷たく強い山風は、虫を追い払うのに効果があり、昔から有機栽培の土壌が培われてきた。そんな土地柄もあり、平成12年「スターランドさかだに」の建設を機に「家庭菜園の味グループ」等、有機農業グループが活動を開始し、更に平成20年度には、国の「地域有機農業推進補助事業」の認定も受け、本格的に有機の里づくりが始動した。

○実施主体 食育のふるさと阪谷をよくする会

2 現状と課題

(1) 人口減少

年々人口が減少しており、平成28年の人口は、平成21年と比較すると281人減少している。今後さらに人口減少が進んでいくことが懸念される。

基準日	人口	前年との比較
H21.1.1	1,759	△ 23
H22.1.1	1,722	△ 37
H23.1.1	1,692	△ 30
H24.1.1	1,634	△ 58
H25.1.1	1,595	△ 39
H26.1.1	1,555	△ 40
H27.1.1	1,512	△ 43
H28.1.1	1,478	△ 34

そのような中、人口減少を補う手段として、交流人口を増やすことが、地域の元気継続のキーワードになってくると思われる。

いかに他地区に誇れる産業、イベント、文化を創造し、活性化させて、生産人口の流出を食い止めるか、いかに交流人口を増やし地域を活性化させるかが課題である。

(2) 点在する観光施設と息づく山村の暮らし

地区内には、農業体験やそばうち体験ができる「スターランドさかだに」をはじめ、多くの体験施設、観光施設が立地している。



スターランドさかだに

また、脈々と受け継がれた田畑を守り続けている知恵深きお年よりが多数暮らしている。これら体験施設、観光施設と人的財産を結びつけたエコツーリズムが今後阪谷地区の活性化のキーポイントになってくると思われる。

そのためには、地区内各施設の連携と交流に対する意識の啓発、さらに魅力的な体験プログラムの開発が必要である。

(3) 近隣の観光地から車で30分以内の距離

大野市街地、勝山市、和泉地区から車で30分以内の当地区。このような恵まれた立地条件を生かし、まず、大野市街地、勝山市、和泉地区に來られた観光客に阪谷に立ち寄っていただきたい。そのためには、安心安全な「有機の里」としていかに「阪谷」という名をブランド化し知名度を上げていくかが今後の課題である。

3 事業の内容

「有機の里づくり」を基本目標とし、①体験ツアーによる情報発信、②農産物の加工品開発、③陶芸の魅力づくり、④食育の祖「石塚左玄」ゆかりの地啓発活動、⑤さかだに雪まつりイベントの開催に取り組んだ。

①体験ツアーによる情報発信

有機の里阪谷の魅力を体感できる体験ツアーとして10月に「阪谷の魅力!体験ツアー」と題して、日帰りのモデルコースを実施した。

また、阪谷地区を案内できるような人づくりを目指し、語り部養成講座として、阪谷の歴史講座を2回開催した。今年度は地区外から講師を招き、金山の歴史について学んだ。



②加工品の開発

さかだに特産工房が中心となり、阪谷地区内で生産されたこだわり野菜を用いた加工品開発を繰り返し実施した。

今年度は新たな取り組みとして阪谷産の小麦粉とそば粉に人参、かぼちゃ、ひまわり油を使って焼き上げた新商品を開発し、イベント等で販売した。「すこ」の加工販売では、昨年度から生産量を増やしているが、今年度もさらなる生産量の増大に対応するため、会員による集中加工作業を行った。人参の栽培においては、今年度からオレンジハーモニー、バイオレットハーモニー、イエローハーモニー、クリームハーモニーの4種類を栽培し、黒田五寸と黄色人参を合わせた6種類の品種に挑戦した。



また、物産展に参加し、その会場で加工品の試作品のモニタリングを実施し、また商品開発や販売力向上のために各種研修・講習会に参加した。

③陶芸の魅力づくり

自主グループ「越前おおの阪谷桃木窯」を中心に、毎月第1・3木曜日に中村鐵遷氏（勝山市在住）を講師に招き陶芸教室を開催した。

また、昨年完成した陶芸窯施設を活用し、たくさんさんの陶芸作品を生み出せるようになった。



④食育の祖「石塚左玄」ゆかりの地啓発活動

食育の祖「石塚左玄」の先祖の墓所が、阪谷地区（萩ヶ野区）にあることから、阪谷地区で石塚左玄が唱えた『食育』を広めていこうと石塚左玄の訓えに基づいた料理教室を年4回開催した。



⑤さかだに雪まつりイベントの開催

平成26年度に、旧六呂師スキー場跡地一体で開催された第1回雪まつりの継続事業として、会場をスターランド阪谷に移し、第2回さかだに雪まつりを開催した。



4 事業の成果

①体験ツアーによる情報発信

近年の旅行者の県内ニーズを踏まえ、日帰りとした体験バスツアーは、新聞広告を展開し、申込み開始30分で定員満杯となり、本イベントへの期待の高さが窺えた。

当日は、地元ワイナリーの見学、本格的なそばうち体験をはじめ、阪谷大岩めぐりなど阪谷の地形や風土を活かした他にはない体験メニューを実施した。

アンケート結果によると、そば打ち体験やアイスクリーム作り体験は体験メニューとしてとても好評であった。また、秋のさわやかな季節の中で日本の原風景のような素敵な田舎を満喫できたとの声も聞かれ、阪谷地区での体験施設と観光スポットの融合によるツアー造成の潜在力の高さを感じた。

また、ツアー全般にわたり、地区民の方のリードにより運営され、地区のリーダーが活躍される場となった。



②加工品の開発と販路開拓

阪谷産小麦を栽培し、その小麦とそば粉に、人参、かぼちゃ、ひまわり油使って焼き上げた新商品「にんじんコッティ」「かぼちゃコッティ」「そばコッティ」を開発、商品化し、イベント等で販促活動を行った。また、既に商品化された「そばつつえる」「まめずきん」も引き続き加工販売を行った。



人参の栽培においては、今年度から紫人参、クリームハーモニー、オレンジハーモニー、イエローハーモニー、ホワイトハーモニーの5種類を栽培し、黒田五寸と黄色人参を合わせた7種類の品種に挑戦し、これら7種類の人参の中から5種類をセットにして、「雪の下人参」として福井市のスーパーマーケットで販売し、安心安全な「有機の里 阪谷」の知名度を上げることに貢献した。また、25年度に福井市の食品小売店と商談成立した「すこ」加工販売については、相手先からの評判がよく、今年度も原料の八ツ頭の栽培面積を拡大し、「すこ」の加工量を増加させた。



また、農林産物栽培講習や6次産業化ビジネスモデル研修など研修に積極的に参加し、商品開発力や販売力の向上が図られた。

③陶芸の魅力づくり

昨年度、陶芸窯施設整備が完了し、阪谷の陶芸窯で、初めて陶芸作品を焼くという試みが行われ、阪谷地区で本格的な陶芸活動ができるよ

うになった。

陶芸教室では、手捻りによる作陶技術を習い、受講者の技術がさらに向上した。

今後、趣味の作陶の範疇を超え、土産品としての活用、こだわり野菜を食するつどいやスターランドさかだにそば処の器としての活用、阪谷での体験メニューとしての活用等、さらには阪谷産の粘土をブレンドした阪谷焼の作陶など今後の取組みが期待できる。



④食育の祖「石塚左玄」ゆかりの地啓発活動

基本目標「有機の里づくり」の食に関する部分を担うため、食育の祖ゆかりの地啓発活動を行った。有機肥料を使い、化学肥料や農薬を使わない阪谷産農産物をおいしく食べる方法や食育の祖「石塚左玄」の訓を通して、「食育」の重要性を地区内外に広めることができた。



⑤さかだに雪まつりイベントの開催

人口減少による地域力の低下が課題となっている当地区において、自然や既存施設などの地域資源を最大限に活用し、魅力あるイベントを実施し、市外からの交流人口を増やすことで地域に活力がもたらされることを期待して、実行委員会を立ち上げ開催した第2回さかだに雪まつりにおいて、2日間で約2,000人の来場者があり、雪を利用した遊びや、地元農産物等を活用した郷土料理のふるまいにと、大いに賑わったイベントとなった。



5 今後の展望

「体験ツアーによる情報発信」においては、「有機の里阪谷」を広く地区内外へ発信し、阪谷の認知度を高めることに貢献しているので、アンケートなどを参考に内容を見直しながら今後も引き続き開催していきたい。

「加工品の開発」においては、特産工房が新たに商品化した「コッティ」シリーズを加え、そばのお菓子「そばつつえる」、大豆のお菓子「まめずきん」、クッキー「KOMUGI」の販売促進を行い、「すこ」の加工販売や「雪ノ下人参」の生産などの取組みも継続して行っていく。さらに、六呂師高原特産物会にも商品開発の仲間に加わって、高原野菜を活用した商品開発に取り組んでもらい、阪谷地区の産業の創造と地域活性化に繋げ、このことで有機の里阪谷の農作物がブランド化することで、さらに需

要が高まり、農業所得が少しでも高まることを期待したい。また、今後も、引き続き商談会や各種イベント、物産展に積極的に参加し、ブランド化を推し進めたい。

「陶芸の魅力づくり」においては、拠点施設が整備されたの契機に、陶芸作りが観光体験プログラムの1つとして実施できるよう、さらなる拠点の整備を行いたい。さらに、将来的には土産品、スターランドさかだになどで使える器などを製作できるように技術向上に努めていく。また、阪谷で採れた土を利用した「阪谷焼」の研究・開発も行いたい。

「食育活動の推進」においては、食育の祖「石塚左玄」ゆかりの地として、地域や学校、関連団体と連携しながら、阪谷で採れた食材を味わえることの喜びや食育の重要性などを広く伝えていきたい。

「さかだに雪まつりイベントの開催」については、雪を活用した冬期間のイベントは、開催できる自然環境等が必要であり、当地区は雪深い地域のハンディキャップをアドバンテージと捉え、雪も地域資源、観光資源の一つとして活用し、雪まつりを他地区に誇れるイベントとして今後も実行していきたい。

これらの事業を通じて、中部縦貫自動車道の開通を見越したさらなる交流人口の拡大と当地区の受け入れ態勢の充実を図り、地域の人材育成とふるさと意識の醸成による地域力の向上を図っていきたい。